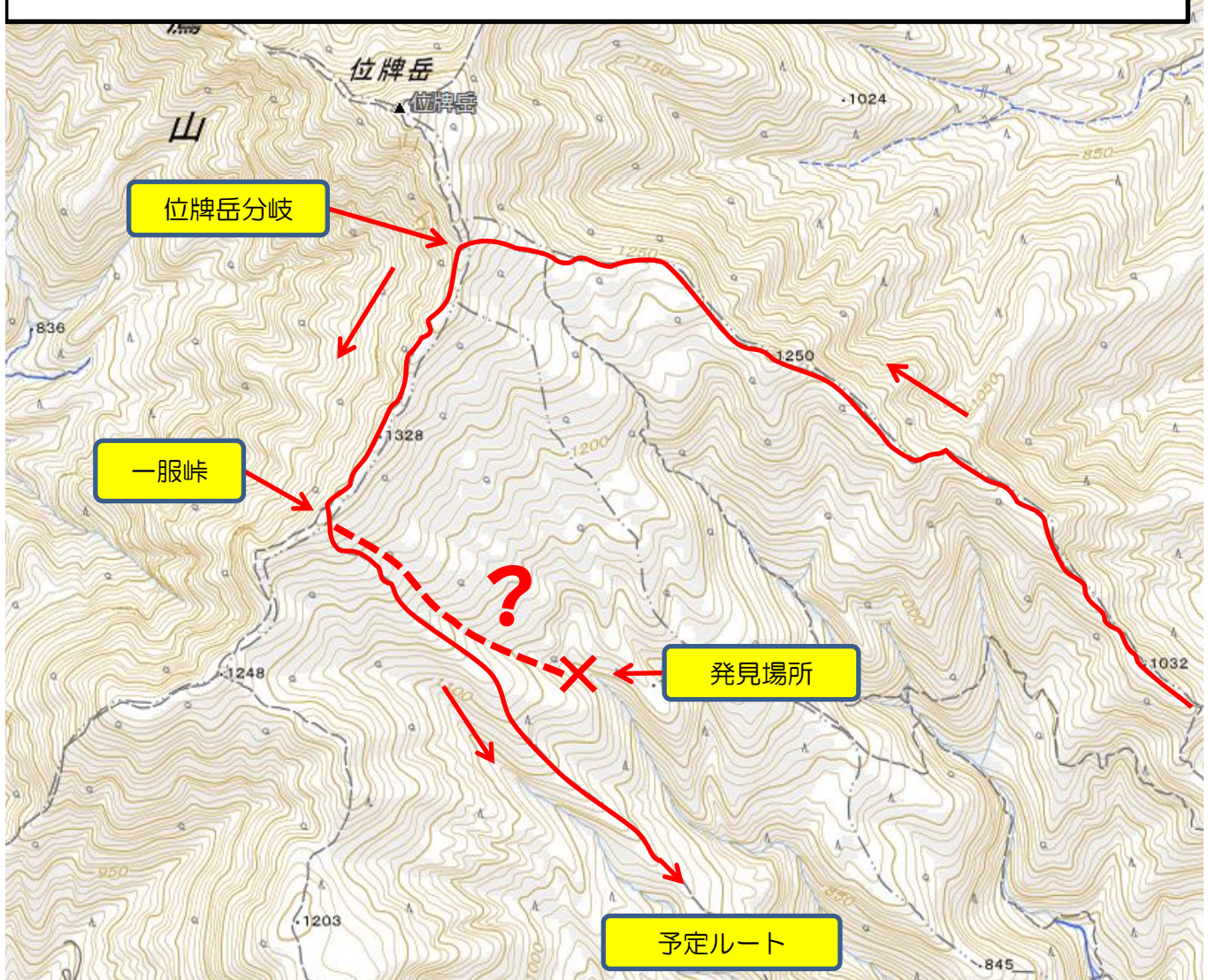


位牌岳道迷い(不明)

ワンゲル女子高生4人は、下りで雨水による溝が道と思い、誤って沢を下山。ヘッドランプを持っておらず、訓練の荷物も重かったなのでその場を動かず救助を待ち事なきを得た。



解説

トレーニングの一環で17~18キロのザックを背負い位牌岳へ。位牌岳分岐を南に降りておよそ1Km、一服峠からの下山道を下る。峠からの下りは尾根道だが、直進方向に雨水による溝ができており、それを下山道と誤認し、沢沿いに下ってしまう。かなり下ったところで、沢が深くなり始め、ようやく道迷いに気づいた。すでに日は暮れていたが、ヘッドランプは持っておらず、荷物も重かったので、その場を動くことができなかった。

19時過ぎ、残った男子部員らが顧問に連絡し、親、警察に連絡し捜査を開始。登山路、下山路より創作したところ、22時ごろ無事発見された。

雨水による水流の跡は、道のように見えることがある。予測をしていれば、沢ではなく、尾根を下らなければならないと誤りに気付くはずだが、①薄暗くなってくる。②ヘッドランプを持っていない。③生徒のみの行動。④重い装備で体力を消耗。というマイナスの要因が道迷いにはある。注意しなくてはならない。